

かぜのきざし

2015 DECEMBER

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第032号

2015年12月10日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

第21回 全国の集い in 北海道 2015 終了 草場大会長、ご苦労様でした。 次は鹿児島で会いましょう!!



草場鉄周大会長

『地域を支えるための育てあい』フロンティアの地 北海道から〜をテーマに、10月11・12日の2日間に渡り開催された「全国の集い in 北海道2015」が成功裏に終了いたしました。



実践交流会においては、全9セッションが行われ、盛んな交流が行われました。回を重ねるにつれその発表内容の充実を感じられる中、今年も「優秀賞」、「フォローアップ推薦」が発表されました。(次ページ以降に掲載いたしました)

「育てあい」 フロンティアの地北海道から

2015年の全国の集いは、地理的、気候的に関してほ他のどの地域よりも特徴的な地域である北海道で開催されました。

そこで、私たちの仲間が、北海道ならではの問題に対し、医療・介護・福祉・市民それぞれの立場から様々な取り組み、提言等が発表され、まさに「北海道らしい」大会となりました。

『フォローアップ推薦』が決定!

『優秀賞』

今年も座長推薦による『優秀賞』、『フォローアップ推薦』が発表されました。
の座長より「優秀賞」として選出された皆様です。

カテゴリー	発表番号	演題名	所属	発表者氏名
実践交流会1 認知症	C01-10	「帰りたい」という思いに向き合うこと	医療法人 社団 都会 渡辺西賀茂診療所 ショートステイにしがも	佐藤 大輔 介護職
共同発表者：渡辺 康介、豊嶋 昭彦、大田 慶一、堤 裕亮				
■推薦理由 「帰りたい」という思いを訴えられる入所者・入居者、ショート・スティ利用者は多い。 その方たちへの対応にはどこの事業所でも苦労していることと思う。本発表ではそこでつく「うそ」に対して後ろめたさを感じることを、つまり倫理的な葛藤を いただくことのできる真摯さを評価し、今後の活躍に期待したい。				
実践交流会2 教育	C02-04	業務改善活動の効果について	医療法人社団 いでした内科・ 神経内科クリニック	中村 豪志 臨床検査技師
■推薦理由 組織が変化しようとする際には責任者をはじめ全てのスタッフが同じように学び、改善へと努力する必要がある。 今日、それを実践されたことは他組織の方々にとっても非常に学びとなるところが大きかった。				
実践交流会3 薬と生活	C03-06	施設における下剤の使用状況と 薬剤師の関わり	友愛薬局 小金原店	箱崎 麻美 薬剤師
共同発表者：秋元 義幸、玉井 典子、尾崎 秀子				
■推薦理由 排便困難は即時に生命に対して重大な影響はないが患者のQOLにとっては深刻な問題であり、その実態を調査した事は重要であり、薬剤師の関与により適切な 排便コントロールにつながる事を示唆した。				
実践交流会4 新しい試み	C04-07	「彩の国連携力育成プロジェクト」に施設側 ファシリテーターとして参加して～無垢な学 生のうちから同じ目線の多職種連携を～	医療法人社団 満寿会 鶴ヶ島在宅医療診療所	齋木 実 医師
共同発表者：新井 尚之、小川 郁男、大嶋 繁、勝木 祐仁、柴崎 智美、田口 孝行				
■推薦理由 本テーマに合致、かつ学生に及んでおり活気的な試みである。 教育面において体験、問題提起、反省を行っておりチームとしての成長につながっていることを評価する。				
実践交流会5 口腔ケアと栄養管理	C05-04	地域を支える在宅栄養管理の実践にむけて	医療法人あいち診療会 あいち診療所 のなみ 訪問看護ステーション	水野 敏江 看護師
共同発表者：藤村 淳子、野村 秀樹				
■推薦理由 現在、在宅での栄養評価については実際に行われている例は少ない中で科学的(医学的)評価を行い今後の発表に生かしており、リクスマネジメントに有効で ある。				
実践交流会6 訪問&通所サービス	C06-12	市民が取り組むリスクマネジメント 評価活動	生活協同組合 パルシステム東京	寺田 美恵子
共同発表者：土屋 紀子				
■推薦理由 市民として福祉や介護の事業所へのリスクマネジメントの評価活動の報告をされました。 再発防止に対する地道な活動、私達が気がつかない事など(リスクマネジメント)への気づきを教える方法・ツール、学ぶ事は多くありました。				
実践交流会7 緩和ケアと看取り	C07-08	特養入所者の自宅での看取り	社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム	太田 伸一 介護福祉士
共同発表者：前平 希望、徳永 明美、穂森 健太郎				
■推薦理由 特養入所された方々が自宅で最後の看取りを実現できるよう医師・看護師・介護士で自宅におむつ・エアマットをはこび最後の見送りをされるという(H15年 から26年の間に18名を経験された)多職種協働のすばらしい発表でした。				
実践交流会8 これからの地域包括ケア	C08-05	地域の健康寿命を支える診療所の看護外来	医療法人あいち診療会 あいち診療所野並	中堀 千賀子 看護師
共同発表者：藤村 淳子				
■推薦理由 基本的な内容、考察とも素晴らしかった。新介護予防事業の取り組みで先駆的です。 看護外来…看護師の役割とその効果は今後ますます確立されていくでしょう。				
実践交流会9 在宅生活の継続	C09-06	重度独居者の在宅生活を支えるユニット型特 養のショートステイの事例～ご本人と家族の 希望の実現に向かって～	社会福祉法人 秦ダイヤ ライフ福祉会 特別養 護老人ホーム絆の広場	森田 絵美 介護支援専門員
■推薦理由 地域包括ケアにおいてその方の状態に合わせ、生活の場は様々となる。生活を継続されていくためには、その生活の場で適切なケアを行うという事が大切になる。 今ケースにおいては、チームアプローチでケアができたと思われた。				

『フォローアップ推薦』

実践交流会 『優秀賞』、

1日目午後より例年通り開催された実践交流会において、実践交流会において、各カテゴリー

カテゴリー	発表番号	演題名	所属	発表者氏名
実践交流会1 認知症	C01-04	メディア・セラピーの試み～その人らしさを支えるケアを目指して～	介護保険サービス事業所 たらど	門田 美穂 介護福祉士
共同発表者：池田 久江、北條 千里、土井 輝子、土井 正樹				
■推薦理由 過去にも発表していますが、本人、スタッフのかかわり方が適切と思われる。他への波及効果がうかがわれます。今後も更にフォローアップ、バージョンアップに期待します。				
実践交流会2 教育	C02-02	(ケアミックス)病院でのリハビリ連携の再考～生活期リハを見据えて～	社会医療法人 仁生会 細木病院 リハビリ テーション課 在宅部	山本 純也 理学療法士
■推薦理由 入院から在宅へ向けたシームレスな連携を目指し療士が中心となり教育を行って確実な成果を上げられた。しかしさらに組織がその中心として活躍できる枠組みを調整されることと期待しています。				
実践交流会3 薬と生活	C03-06	施設における下剤の使用状況と薬剤師の関わり	友愛薬局 小金原店	箱崎 麻美 薬剤師
共同発表者：秋元 義幸、玉井 典子、尾崎 秀子				
■推薦理由 排便困難は即時に生命に対して重大な影響はないが患者のQOLにとっては深刻な問題であり、その実態を調査した事は重要であり、薬剤師の関与により適切な排便コントロールにつながる事を示唆した。フォローアップ賞も兼ねて、今後の活動、特に薬剤師の関与と多職種との連携についても期待したい。				
実践交流会4 新しい試み	C04-06	ケアの変革は若い世代のリーダーシップから～20代の挑戦と成長を通して得た学び、そしてこれから～	大和会グループ 社会福祉法人 秦ダイライフ 福祉会 特別養護老人ホーム あざみの里	柳沢 江美子 介護福祉士
■推薦理由 職員教育としてのOJTとして別方向から取り組んでいることが新しい。目的をはっきりさせ研修を行っていることが良い。他の職員のモチベーションも上がっていることが素晴らしい。教育体制がはっきりしていることも良い。				
実践交流会5 口腔ケアと栄養管理	C05-04	地域を支える在宅栄養管理の実践にむけて	医療法人あいち診療会 あいち診療所 のなみ訪問看護ステーション	水野 敏江 看護師
共同発表者：藤村 淳子、野村 秀樹				
■推薦理由 在宅栄養評価を行うことによりサルコペニアなどのリスクマネジメントを有効に行うことができる。今後の拡がり、細かな評価を期待する。				
実践交流会7 緩和ケアと看取り	C07-07	浅草地域多職種連携“緩和ケア啓発活動におけるケアマネージャーの現況と認識”	ケアマネジメントセンターあさくさ	西澤 文恵 介護福祉士
共同発表者：安達 昌子、宮原 富士子				
■推薦理由 手弁当ではじめられケアマネージャー、医師、薬剤師、介護多職種の連携で活動されNPOとして発表された浅草かんわネットワーク研究会の緩和ケアの活動、がんCaféなどされている報告はよかったと思う。来年また一段と大きくなられたネットワークの報告を聞きたいと思いフォローアップに推薦しました。				
実践交流会8 これからの地域包括ケア	C08-03	事例から見えてくる地域力の現状と支援センターの関わり「地域包括ケアに向けて」	社会医療法人仁生会 細木病院在宅部 高知市北部地域高齢者支援センター 城西出張所	中居 江美 相談員
共同発表者：西本 かがり、廣井 三紀				
■推薦理由 事例へのとり組み姿勢がすばらしい。今後の地域力向上に向けたとりくみの報告に期待したい。				
実践交流会9 在宅生活の継続	C09-09	ご家族と共に生活リハビリを实践して	医療法人あすか 毘沙門クリニック 通所リハビリテーション 野の花	佐々木 郁恵 理学療法士
■推薦理由 病院・老健でできないことに視点がおかれていたが在宅生活でできることに視点を置いて、残存能力の回復をすすめた。今後も同様のケースがあると思われるので再度の報告を期待する。				

リレー寄稿

介護保険導入で脆弱化した訪問看護

生活を整えるとは

NPO在宅ケアを支える診療所・全国ネットワーク副会長 藤村淳子

リレー寄稿の四回目です。今回は藤村淳子副会長より頂きました。リレー寄稿を通したテーマはありません。しかしながら、「目田な」テーマであっても、その中から何か見えるものがあり、それが当NPOの今後の方向性、とつながるものがあると感じ、今後少なくとも「アメンパー」内で「思いの裡」を繋げて行きたいと望んでおります。

私が訪問看護を始めた時、いくつもの困ったことが有り、その解決の為にあちこち走り回った。ベッドが無ければ区役所に言っただけで貸し出しを頼んだし、家族が病気で入院すれば、ショートステイの受け入れ先を必死で探した。今まで例がないと言いつつある。しかし認知症が進んでいたり、気管切開をしていたりすると受け入れてもらえないこともあり、あいち診療所は開業3年目で有床化することになった。

目の前に患者がいれば、その患者が健康に暮らせるようにするのが、「生活を整える」という意味である。介護保険が始まった時「ケアマネジメントは看護の一部」という文章を書いたが、私たちは制度を超えてマネジメントしな

れば患者を健康に維持することが出来なかったからである。

介護保険が始まって、在宅生活を支える様々なシステムが急速に充実したのは喜ばしいことであり、そのころ経験した苦勞の多くが無用のものとなった。しかし、介護保険の中で介護支援専門員(ケアマネ)という資格により働く職種が生まれたことで、看護師がマネジメントを自分でするものと思わなくなりました。ケアマネの給料が安いことから、看護師はケアマネの仕事にかかわることをしなくなり今やケアマネの多くは介護の専門職が担う形になっている。

病院では診療の補助業務に忙殺され、それ以外の看護に携わる機会は極めて少ない。訪問看護の世界で私は診療の

補助業務から離れた、看護の楽しさを味わったがそれはマネジメントそのものであった。もともと診療の補助業務しか病院で経験を積まない看護師が、訪問看護を始めて、ケアマネがマネジメントするものと思いついで、マネジメントせず単に診療の補助業務と同じようなことを訪問して行なっているだけといった訪問看護をいくつも目のあたりにさせられている。

介護保険のケアマネの多くが介護保険のサービスのあてはめに終始し、本当のマネジメントを行わない現状で、看護師がマネジメントしなければならぬ状況はいくらでもあるが、多くの看護師が制度で許された関わりしか持とうとしていない。要介護度が下がったから訪問看護は中止しますといわれると、その患者

さんとは縁が切れても仕方がないと受け入れる。それが自分を守るべき患者に対する看護と言えるのだろうか。



元々、診療の補助業務以外の看護には、看護師の資格がないとできないことは少ない、ケアマネの中には介護保険を超えてマネジメントが出来る方が少い。もともと看護師が担ってきたリハビリにリハビリ専門職が生まれ、いつの間にかリハビリに関してはリハビリ専門職の後塵を拝するようになった看護師が、ケアマネにもその役割を委ねてしまうのであれば、医師の下で働く以外の道は残らなくなってしまうのではないかと危惧するのは心配のしすぎだろうか

次回は、桑原由次事務局長次長
にお願しております。

東京事務局からのお願い

東京事務局では情報収集・発信事業の一環として介護等に関わる各種情報の分類・整理・発信を計画しております。理事会において、出席された各理事に対し、各々の診療所・施設で発行している会報・情報誌・広報誌等を可能であれば東京事務局へ送付して頂戴をお願いいたしました。その件に関し、改めてこの紙面でお願申し上げます。その内容の取り扱いに関し、個人情報等には十分な配慮をさせていただきます。お送りいただく場合、印刷物、電子的データいずれでも構いません、下記住所及びメールアドレスをお願いいたします。購読料等の必要がある場合は事前にお知らせください。

ご質問等ありましたら、電話、FAX 又はメールいずれでも結構です。

〒112-0014 東京都文京区関口1-19-2 第2弥助ビル5F 株式会社チャンネル・コンピューター・プリント内
NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 東京事務局
TEL: 03-3235-7906 (平日 10:00 ~ 16:00) FAX: 03-3235-4880 e-mail:tokyo-jimukyoku@home-care.ne.jp

総会報告

開催日時：2015年10月12日 午前8時より

開催場所：札幌コンベンションセンター 102号室

出席理事：(敬称略) 黒岩 卓夫、苛原 実、大澤 誠、長縄 伸幸、藤村 淳子、畑 恒土、石田 一美、
桑原 由次、井村 隆、大川 延也、岡崎 和佳子、金井 秀樹、金田 弘子、多湖 光宗、中嶋 啓子、
西嶋 公子、福田 善晴、村山 善紀、森本 益雄、吉永 隆行、吉井 敦子、萩田 均司、草場 鉄周、
中嶋 久矩

委任状及び書面回答：(敬称略) 太田 秀樹、新田 國夫、宮坂 圭一、小林 るつ子、永井 康徳、長 純一、
黒岩 海映

欠席理事：(敬称略) 青木 佳之、上村 伯人、洪澤 温之

◎第14回通常総会が終了いたしました。

例年通り、全国大会に合わせ、本年も北海道大会の2日目に開催されました。審議内容は以下の通りです。



審議事項

第1号議案

2014年度事業報告の件

第2号議案

2014年度活動計算書及び監査報告

第3号議案

2015年度事業計画承認の件

第4号議案

2015年度活動予算書承認の件

第5号議案

定款変更承認の件

第6号議案

役員選出の件：留任を含め全34名が承認されました。

4名の方に新しく理事をお願いすることになりました。

大石 佳能子、小倉 和也、沖倉 紅児、小山 亨

第7号議案

会員区分変更に伴う会費変更承認の件

新しく理事になられた方の自己紹介及び就任の抱負

6号議案において承認いただいた4名の新理事のプロフィールとコメントを掲載させて頂きました。

大石佳能子 理事

1) 自己紹介

(株)メディヴァ代表取締役の大石佳能子と申します。

私はもともと、コンサルティング会社のマッキンゼーでパートナーをしていましたが、出産を契機に医療に興味を持ち、数名

の医師(亀田メディカルセンターの亀田先生方、プラタナスの遠矢院長等)のご支援を受け、メディヴァを設立しました。

メディヴァはヘルスケア分野の専門コンサルティング会社です。現場運営を得意とし、医療現場に入り、一緒に運営をします。テーマとしては経営改善だけでなく、患者さんや医療職の方々にとつ

て抜本的に新しい「価値」を生み出す、「新しい仕組みづくり」を手掛けています。

最近では、各地の行政のお手伝いで『地域包括ケアシステム』の立ち上げや、桜新町アーバンクリニックを初め多くの在支店で、「仕組み」の整備をお手伝いし、患者さん・ご家族、医療職・介護職にも優しい在宅ケアづくりを手掛けています。

2) 抱負

在宅ケアは、今後の日本にとって大変重要なテーマと認識しています。2025年に向けて社会構造が大きく変化中、高齢者が幸せに生涯を全うするために『地域包括ケアシステム』の構築は必須で、その中でも『在宅ケア』は欠かせない要素です。

私は医療職、介護職、息者さん、ご家族、地域を支える多くの事業者の立場の人とともに、『地域包括ケアシステム』や『在宅ケア』に関して考え、お手伝いをしてきました。その経験を活かしながら、本NPOの理事として、更にこのテーマについて勉強し、他の理事の皆様や会員の皆様とディスカッションを重ね、より良い仕組みづくりのお手伝いをさせて頂ければ幸いです。また、一般市民の皆様の『地域包括ケアシステム』や『在宅ケア』に関する理解が深まるよう、発信していきたいと考えています。どうか宜しくお願いします。

小倉和也 理事

1) 自己紹介

青森県八戸市出身です。北海道家庭医療学センターでの研修、弓削メデイカルクリニックでの勤務を経て、平成22年にはちのへファミリークリニックを開院いたしました。

家庭医として、乳児健診・予防接種から生活習慣病の治療、認知症相談から在宅緩和医療まで行っております。

八戸市立市民病院など複数の医療機関と共同で日本プライマリ・ケア連合学会認定プログラムである青森県東部家庭医療後期研修プログラムを立ち上げ、研修医の指導も行っています。

また、在宅医療の連携強化のためのネットワーク作りと、市民および多職種の方への啓発・教育活動にも力を入れています。現在、青森県の在宅医療多職種協働モデル事業としてモデルチームを組織し活動を行っております。

2) 理事就任の抱負

地域において子育て・介護をしながら働く人々を支える診療が当院のモットーです。そのための環境づくりのための活動も積極的に行って参りましたが、今後全国的な活動から学びながら、その活動にも貢献できる形を目指して行きたいと考えております。

地方においては、在宅医療を支えるさまざまな資源とその活用のためのノウハウが不足しています。特に小児の在宅医療や障害者の在宅医療、認知症の方の療養のための環境整備が急務であると考えています。今後全国的な活動に参加しながら、地域の特性に合った形をそれぞれの地域で展開するための情報交換、協力体制の充実にも少しでもお役に立てればと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

小山 亨 理事

1) 自己紹介

この度は、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの理事にご推薦いただき誠に光栄に存じます。

私は、通常の歯科外来診療のほか地区歯科医師会が提携、契約

した介護施設、また地区医師会、地域機関病院、訪問看護ステーション等と連携して在宅歯科診療、口腔リハビリ等を行うことで、在宅療養されている方々の自分にできる生活支援を行って参りました。

また、現在地区医師会と行政が主体で取り組んでいる、地域包括ケアシステムの実現を目指す「在宅医療・介護連携推進協議会」の委員として勉強させていただいております。

2) 理事就任の抱負

これからの日本では、進行する高齢化によりベッド数の不足から、その受け皿として療養の場が居宅、介護施設、居宅系介護施設へとシフトしていくことが予測されています。

そしてそれに伴って、厚労省から示された「社会保障・税一体改革大綱」の中で、在宅医療の推進、チーム医療の推進を含む医療サービス供給体制の制度改革と地域で支援していける地域包括ケアシステム構築が盛り込まれ、その取り組みが急がれています。この2025年に向けての変化と課題の中で、地域で療養する方々を市民を含め多職種協働で支え合い、生活を支援していくことがより求められていくものと考えます。私も歯科医という立場で本会の趣旨に沿えるよう研鑽をつんでまいります。ご指導よろしく申し上げます。

沖倉紅児 理事

1) 自己紹介

パルシステム生活協同組合連合会(首都圏を中心とした1都11県の地域生協が加入する連合会組織)の沖倉紅児です。

私が現在の所属する総合福祉事業推進室は、2014年11月に新たに設置された室(部署)です。当室の開設目的は、2014年4月に制定された当連合会(パルシステムグループ)の総合福祉政策の推進を図ることです。総合福祉政策の中で「誰もが地域で安心して暮らせる社会をつくるために、パルシステムの事業と活動が地域の団体や人々と有機的につながり、その力を最大限に発揮していくことが求められている」とあります。現在、加入生協では、市町村訪問活動などを通して、多種・多様な地域の課題に対し、それぞれが保有する資源をどのように活用し地域へ持続可能な貢献できるかの検討やモデルづくりを開始しています。私事ではありますが、このような社会貢献に繋がる仕事を支援できる喜びを噛みしめながら、日々職務に励んでいます。

2) 理事就任の抱負

今、日本は、少子高齢化が進行し、雇用環境の変化、貧困・格差の問題など、社会・経済構造が大きく変化し、これまでの行政主体の対応ではこの局面を乗り切っていくことは難しくなっています。時代の要請に合った公的保障のセーフティネット構築とそれを補完するための市民によるインフォーマルサービスの充実が必要とされています。その仕組みとして「地域包括システム」の構築とその機能発揮が急がれています。また、その一翼を担う社会資源として、協同組合は地域を基盤とした相互扶助組織としての役割発揮が求められています。この「地域包括システム」を構築するために重要なのが「連携」で、その中で医療との連携が最重要となります。

私は、NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークのまさにネットワークを介して、持続可能な医療、介護、助け合いなどの連携モデルを構築し、社会に新たなモデルを発信できればと考えています。

Mail Magazine

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配信されている記事の転載版です。

今回はメルマガより医師・法人会員活動員紹介のコラムを掲載いたしました。

(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を發揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を図る必要があります。

事務局ニュース 2015・10

医師・法人会員活動紹介

「医療法人 出水クリニック」

院長 出水 明

当院は1996年大阪府岸和田市で開院した外来と在宅医療を行うミックス型診療所です。岸和田市は大阪府南部にある人口約20万人の市で泉州二次医療圏に属していますが、この医療圏には大学病院も500床以上の病院もありません。また市内2カ所、隣接市を合わせ4カ所の緩和ケア病棟があり、療養病床も多く、在宅療養を選択する患者は必ずしも多くありません。

これまでに約520名の末期がん患者、70名の神経難病患者を含め890名を在宅導入し、6名の小児科患者を含む500名あまりを在宅で看取りました。常時対応患者数は70名前後ですが、年間に140名ほどの患者の約半数が死亡等に入れ替わります。常勤医は18年間1名でしたが現在は2名で診療しています。

当院の特徴は

①院内訪問看護…現在7名の訪問看護師と毎朝45分間のカンファレンス、医師・看護師共通カルテ使用などでその連携

濃度を高めています。

②ミックス型…在宅導入患者の1割は自院患者です。適切なタイミングでのかかりつけ患者の在宅導入、当初通院を希望する紹介がん患者への対応、在宅遺族の外来でのフォローをおこなっています。

③在宅診療連携「岸和田在宅ケア24」…2004年に4軒で立ち上げ、現在は10軒で市内の強化型在宅診療のほとんどが参加しています。「24時間対応は訪問看護との連携で自己完結、365日対応は診療連携」がコンセプトで、おかげで学会への参加、旅行、趣味の登山も可能になりました。



④医療介護連携事業活動…医師会在宅担当理事として行政を含めた多職種と行っています。毎月定期開催の在宅医療介護連携拠点会議には当院の医師も看護師もメンバーとして参加しています。この活動は「アットホームきしわだ」とい

うWebページで情報発信しています。

病気や障害を持つても、住み慣れた場所で安心して過ごせる人に優しい社会を目指して、医療として必要なことを在宅マインドを持って提供することを理念として地域医療に少しでも貢献したいと思っています。

医療法人 出水クリニック
〒596-0046
大阪府岸和田市藤井町1-12-5
TEL:072-4337-5811
FAX:072-4337-5836
Email: clinic@denizu-c.or.jp
URL: http://www.denizu-c.or.jp/
岸和田在宅ケア24
http://www.hc24.com/
アットホーム岸和田
http://home-kishw_ada.jp/



オオヤマレンゲ 大峰 八経ヶ岳 7月 (HPより掲載)

第22回全国の集い in 鹿児島 2016

『鹿児島へ向けて---準備が本格化!!』

— 第2回実行委員会開催 —

北海道大会の終了に合わせ、来年開催予定の鹿児島において実行委員会が開催されました。すでに6回に渡り準備委員会が行われており、いよいよ本格的に活動を始めました。

◎実行委員—ほぼ決定

吉井大会長以下の実行委員の顔ぶれもほぼ揃ってきました。(開催内容により変更の可能性あります)

大会長

吉井 敦子 社会福祉法人野の花会 理事長

副大会長

加倉 秀章 医療法人春成会 鶴木医院 院長

徳田 英弘 医療法人ネリヤ ネリヤクリニック 理事長

実行委員長

吉元 和浩 みどり明星クリニック 院長



副実行委員長

徳永 正義 社会福祉法人山陵会 理事長

楠元 茂正 社会福祉法人野の花会

アルテンハイムリハビリテーション
クリニック本町 院長

実行委員

前田 正彦 南さつま中央病院 副院長

中山 昭良 介護老人保健施設

アメニティ国分 事務

浜田 博 社会福祉法人紘徳会

みどりの園 経営戦略本部長

尾脇 聖一 鶴木医院 事務長

福原 和人 鹿児島歯科医師会

橋口 衛 特定医療法人 左右会

藤後クリニック 院長

社会福祉法人 橋友会 理事長

松村 伸一郎 社会福祉法人 恵会

特別養護老人ホーム

はっぴー園 副理事長

常見 裕之 公益社団法人 認知症の人と家族の会

鹿児島県支部 代表

福原 和人 鹿児島歯科医師会

事務局

楠元 寛之 社会福祉法人 野の花会



実践交流会、シンポジウム等の検討を始めると共に、プレ大会を主として九州で開催するよう準備をしております。

その他情報を含め、ホームページにおいて順次ご案内をさせていただきますので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

活動予定

★ 全国の集い in 鹿児島
平成28年9月18〜19日
開催地…鹿児島

★ 第3回理事会
平成28年8月28日(日)
場所…東京

★ 第2回理事会
平成28年5月22日(日)
場所…東京

★ 第1回理事会
平成28年2月21日(日)
場所…東京

★ 平成28年8月
開催日…開催地は未定

★ 平成28年6月
開催日…開催地は未定

★ 平成28年4月
開催日…開催地は未定

★ 平成28年2月15日(月)
開催地…鹿屋市

★ 鹿児島プレ大会

風の萌

2015年12月10日発行(第032号)

頒 価：1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市長区籠山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

∞∞∞編集後記∞∞∞

早いもので2015年も後わずかとなりました。皆様は如何お過ごしでしょうか。

今年最後の風の萌をお送り致します。

段々と寒く成って行く時期ですので、お体には気お付け下さい。

東京事務局一同来年度も宜しくお願い致します。

東京事務局 犬童